

冒険あそび場 だより

「あそびーくろ」と
「シロウ」デビュー!!

遊び場づくりがますます
広がっています!

思いっきり遊べる場所
つくっています

さまざまな支援活動に
取り組んでいます

被災地域を記録し
伝えています

他団体とつながり
活動を広げています

産直広場ぐるぐる
がんばってます



冒険あそび場ネット マップ

2012年度の 遊び場づくり活動 について



震災前に拠点としていた海岸公園冒険広場（ぼうひろ）が長期休園となるなか、①震災前からの「遊びを通して子どもの育ちを支えていく」役割に加え、②震災によりさまざまな不安やストレスを抱える子どもたちの「心のケア」の役割を担うことも目指し、いろいろな場所で遊び場づくりを続けています。こんな時だからこそ、日々の暮らしの中で子どもたちが思いっきり遊び、自らを癒せるような環境づくりにつとめました。2012年度は、前年度から始めた若林区六郷・七郷地域の5か所の遊び場(B・C・F～H)を継続・定着させていくと共に、新たに他地区の仮設住宅(D)・放課後の校庭(A・E)でも、遊び場の取り組みを始めました。初期から活躍する「プレーカー」（日本冒険遊び場づくり協会による支援）に加え、提供を受けた2台の車両に新たにペイントを施し「あそびーくる」「シロウ」が登場、活動の幅がひろがっています。石巻ほか、仙台市外の遊び場の応援にも行きました。仮設住宅から恒久住宅へ向けての動き、学校統廃合、…被災地域はまだまだ落ち着かない状況ですが、そんななかだからこそ、人と人が出会う場づくりを続けていきたいと思ひます。

A 若林小 あそび場



2013年2月から小学校、地元の児童館、市民センターと連携をとり若林小の児童を対象に不定期ですがあそび場が始まりました。毎回ランドセルを周りに放り出して遊びに一目散にやって来る姿が見られます。

場所 仙台市立若林小学校
日時 月1～2回程度

D 卸町五丁目 あそび場



仮設住宅の中の小さな公園で9月から開始しました。仮設住宅には仙台市だけでなく、福島県をはじめ様々な場所から被災者が集まって生活を送っています。住んでいる子どもは多くありませんが、遊びを通して関係性が急速に深まっています。

場所 卸町五丁目公園仮設住宅
日時 毎週土曜 10時～16時

E 中野小 あそび場



被災して中野栄小学校内に併設されている中野小学校の校庭での遊び場です。放課後に2つの小学校の子どもが入り混じって遊んでいます。小学校、PTAとの協働を行い、地域再生のきっかけとなる可能性も秘めています。

場所 仙台市立中野小学校
日時 月1～2回程度

F 荒井2号公園 あそび場



荒井2号公園仮設住宅の隣で開催している遊び場です。午前中は幼児、午後は小学生が主に遊びに来ます。活動が続く中で小学生と幼児と一緒に遊ぶ姿も見られるようになりました。近隣の方、仮設住宅に住んでいる方も来て、様々な関係が生まれてきています。

場所 伊在2丁目公園
日時 毎週水曜 10時～17時

B ニッペリア あそび場



若林日辺グラウンド(通称ニッペリア)仮設住宅の敷地内での遊び場です。東六郷小と六郷小の2つの小学校の子どもが遊びに来ています。仮設住宅に住んでいる皆さんも、一緒に遊んだり、おしゃべりしたりと遊び場に寄っていきます。

場所 若林日辺グラウンド仮設住宅
日時 毎週木曜 14時～17時

C 六郷あそび場



たき火が使える遊び場で、子ども達はお昼を作って食べるなど遊びの幅が広がっています。六郷小の子ども、東六郷小の子ども、また幼児から中高生まで異年齢が集う交流の場となっています。

場所 仙台市立六郷小学校
日時 毎週日曜 10時～16時



a～gは「産直広場ぐるぐる」の活動場所です。(詳細は裏面参照)



G 七郷あそび場



海岸公園冒険広場のサテライト事業として行われています。広い公園を使ってダイナミックな遊びが展開されています。遊びに来ている子の年齢も様々でいる世代が交わって遊んでいるあそび場です。

場所 荒井4号公園
日時 毎週土曜 10時～16時

H 上荒井公会堂 あそびば 「ちびひろ」



「若い親の孤独な子育てをなくす」ことを願い町内会館を利用して開いている乳幼児対象の室内遊び場です。父親の参加もあり親同士が繋がることで子育てに安心と自信が生まれています。また地域の中に子どもを見守る大人達の眼が育っています。

場所 上荒井公会堂
日時 毎週木曜 10時～12時

海岸公園冒険広場 (ぼうひろ)



3.11の津波による被害を受けた海岸公園冒険広場(指定管理者として運営)は、未だ休園中です。2011年度に3日間行なった臨時開園も、2012年度は実施できませんでした。近くの海岸線では防潮堤の整備工事が進行し、両側の搬入場に積み上げられている災害廃棄物の山も徐々に小さくなってきました。ですが、農業再開のための基盤整備や県道のかさ上げなど、周辺の多くの復興事業はまだまだこれから。公園再開にもしばらく時間がかかりそうです。浸水範囲にあった管理棟などの被災建物は、2013年2月に解体されました。痕跡を残すものは次々と園内から消えていきますが、今後のためにも、あの日の記憶を留めるものの記録・保存に努めています。一つひとつ、できることを続けていきたいと思ひます。

【現在休園中】仙台市若林区井土字開発139-1

他団体の遊び場開催支援

冒険あそび場ネットは2012年度、以下の団体の遊び場にスタッフを派遣し、その開催を支援しました。

- ・「気仙沼あそびーばー」（気仙沼市/日本冒険遊び場づくり協会 ※現 気仙沼あそびーばーの会）
- ・「子どものまち・いしのまき」（石巻市/子どものまち・いしのまき実行委員会）
- ・「プレーパークやっぺす」（石巻市/石巻復興支援ネットワーク）
- ・「石巻プレーパーク in 開北小」（石巻市/子どものための石巻市民会議）
- ・「うらやまでプレーパーク」（石巻市/北上プレーパーク有志の会）
- ・「大槌小学校・中学校みんなの遊び場」（岩手県大槌町/グッドネーパーズジャパン）
- ・「ふるじろプレーパーク」（仙台市/ふるじろプレーパークの会）

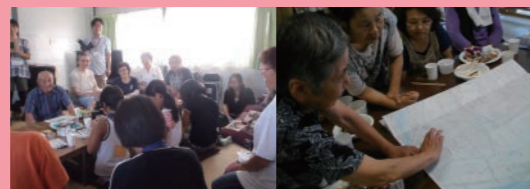


様々な支援活動

震災直後から始めた遊び場活動と同時に、仙台市内外の被災した小学校・保育園・幼稚園、高齢者施設等へ支援物資を届ける活動や他団体と連携して支援を繋げる役割も担ってきました。仮設住宅の隣で活動する遊び場と並行させ行ってきた仮設住人を対象にした「ものづくりとお茶っこのみ」支援は、月一回・各仮設住宅で行っています。回を重ねる毎に参加者も増え「遊び場と仮設の住人」が繋がり子ども達への声かけ・心配り等の体制が作られています。また、東京都世田谷区の街づくり団体と協働で行った「遊び場マップ」製作時には、仮設に住む方に幼少時の話を聞く交流の場を設けました。今は被災し面影を留めていない故郷を思い出しながら話してくれました。「何もかも失い、辛さだけ抱えて暮らしてきたけれど思い出（記憶）だけはまだ残っていたなあ」と笑顔で語る言葉に重さを感じました。そして2年を迎えた今、集団移転、復興公営住宅などの話題も始まりました。今後また新たなコミュニティを構築するといった課題に向き合っていくはならない現状があります。今後も被災者を含め地域の思いや心に寄り添う支援の継続が必要であると思っています。



縁側倶楽部



せんだい・太子堂プロジェクト



物資支援

被災地域における生き物調査～冒険広場とその周辺～

海岸公園冒険広場では、震災前「UMAをさがれ!」と言うプログラムを開催してきました。その中で子ども達と一緒に公園内、その周辺に生息する生き物たちを見てきました。しかし震災によって公園周辺の環境は激変し、子ども達と一緒に捕まえた生き物たちの姿も見えなくなってしまいました。その為震災前の状況を知っている我々がどれくらい生き物が戻ってきているか、震災後の環境の変化を確認するために行っています。



調査の様子



震災前は見えなかったミスアオイ

今後に向けて

東日本大震災から3年目の2013年度。仮設住宅は解消までまだ時間がかかりそうですが、一方災害公営住宅の入居も本格化し、集団移転地の造成が進むなど、被災地域も新たな段階に入りそうです。子どもの心のケアをはじめ、被災者の孤立防止、コミュニティの再生等、あそび場づくりを中心に、さまざまなアプローチで震災復興支援活動に力を注いでいきます。同時に、震災前より取り組んでいる全ての子どもが遊び育つ環境づくりのための動きにも、あらためて力を入れていきます。いつでも遊びに来られる新たな拠点の確保を探ると共に、ボランティアの輪をひろげるなど、地域・社会への浸透を意識して取り組みますので、ぜひ皆さまのご協力をお願いします。皆さんと共に歩んでいくため、認定NPO法人化も目指したいと思えます。



あの震災を、記録する、伝える

冒険広場は管理棟、テイスイト、幼児遊具広場等は津波で大半が流されてました。あそび場、展望台エリアはほとんど被害を免れたものの、やはり津波を被っている部分もあります。再開後公園が果たすであろう役割も見えながら隣接する松林の残存部も含め、震災の記憶の保存・記録のために尽力しました。



視察の受入



案内板の整備

メディアでの紹介

- ・泉区福祉ガイドブック作成委員会「東日本大震災の記録・宮城」(2012.4)
- ・日本子どもを守る会「子ども白書2012」(2012.8.25)
- ・日本公園緑地協会「公園緑地」(2012.8.30)
- ・せんだいメディアテーク「3がつ11|ちをわすれないうためにセンター」(2012.8)
- ・ラジオ3「ラヂオはいらいん若林」(2012.10)
- ・復興庁「男女共同参画の視点からの復興」(2012.11)
- ・NHK「おはよう宮城」(2012.11.27)
- ・河北新報 夕刊 (2012.11.30)
- ・今野印刷「仙台っこ」(2013.2.1)
- ・杜の伝言板ゆるる (2013.3)
- ・JCOMチャンネル「タなび 湘南～横浜」(2013.3)
- ・若林区子育て情報マップ作成委員会「わっぴー2013」(2013.3)
- ・子ども&まちネット「ユース・オシカ」(2013.3)
- ・杜の伝言板ゆるる「復興ingみやぎwith NPO」(2013.1)
- ・上荒井町内会「上荒井町内史」(2013.1)
- ・NHK「ひるはび」(2013.3.14)



河北新報夕刊「夢遊車あそび車出動」

つながる、ひろがる

2013年度、私たちは被災地域における子ども支援のあり方や、復興に向けた街づくりにおける子どもの視点をテーマとした学習会を2度にわたり実施しました。また、FEEL Sendai「杜々かんきょうレスキュー隊事業」に参加し幼児を対象とした環境学習プログラムを作成・実践しました。仙台市宮城地区では、ママ企画@実行委員会「みんなであつなろう」に協力し、育児に奮闘する母親の交流場づくりに取り組みました。さらに、遊び場を開催している地域の夏祭りの開催にも協力しました。その他、市内外の様々な団体や行政と協働して子どもの遊び環境の再構築や被災地域の支援活動に取り組みました。



学習会



杜々かんきょうレスキュー隊事業



ママ企画@実行委員会



地域の夏祭り協力

いのちをつなぐ森プロジェクト

私たちは2011年7月、海岸公園冒険広場で植樹「いのちをつなぐ森プロジェクト」を実施しました。2012年は除草を行う等他団体からご協力頂きながら維持・管理に取り組みました。今後も植樹した木々の成長を見守り、失われた沿岸部の緑の再生の象徴としていきたいと考えています。



冬を乗り越える木々



除草作業



産直広場ぐるぐる



2009年9月15日に若林区と締結した「若林地産地消ショップ運営事業」は、2012年3月31日をもって終了し、2012年度は厚労省の社会的包摂・「絆」再生事業を活用し、地域資源（農産物）をいかした見守り事業として活動を続けてきました。プレハブ仮設やみなし仮設が多い地域へ若林区の元気野菜を届ける移動販売に加え、サロン活動も行なっていました。各売り場でのコミュニケーションづくりや若林3丁目事務所での「おしゃべりサロン」および被災者のグループ活動への支援は、地域住民と避難してきた住民の架け橋的な役割を担っています。開設から1年が経過し、ここが支援される人の受身の場所ではなく、次の活力への場所となってきたことを感じています。支援する人される人という関係ではなく、ひとりひとりが安心できる場づくりの為に、ここに集う人々の力は今後ますます発揮されていくことと思われまます。こういう力をコーディネートして、以前にも増して生きやすいまちをつくっていかうと考えています。

プレハブ仮設・みなし仮設入居者の見守り

プレハブ仮設住宅や、みなし仮設が多い地域で産直市場を開催しました。買い物きっかけに、おしゃべりサロンやイベントへの参加を促し、孤立化を防止することが目的です。

- a 「若林マルシェ」「おしゃべりサロン」* 毎週水・土曜
- b 「サロンゆうゆう産直市」* 毎週水・木曜
- c 「フォンテーヌ産直市」* 毎週木曜日
- d 「卸町土曜市」(卸町五丁目公園仮設住宅)* 毎週土曜



おしゃべりサロンdeひなまつり



親子deクッキング



卸町土曜市



若林マルシェ

他団体催事と協力した被災者支援

他団体主催の催事にも参加して、より広範囲に渡る被災者支援を実施しました。

- e 「お薬師さんの手づくり市」(薬師堂手づくり市実行委員会)* 毎月8日
- f 「Yわいマルシェ」(仙台YWCA)* 毎週木曜 2013年3月プレオープン
- g 「マルシェジャポン・センダイ」(仙台ファミリアマルシェ実行委員会)* 第2・4金曜 2013年3月終了

旬の野菜を使ったイベント(親子DEクッキング・収穫祭等)、季節行事(五節句・餅つき等)を大事にした活動も続けています。つくる人、食べる人のおいしい関係がどんどん広がるといいなあ～



お薬師さんの手づくり市



マルシェジャポン・センダイ



野菜BOX



重陽の節句



おしゃべり

【発行・編集】
特定非営利活動法人
冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク
仙台市青葉区国分町3-8-17 東ハイツ 202
TEL: 022-264-0667 メール: asobo@coral.plala.or.jp

【発行日】
初版: 2013年7月1日 改訂版: 2013年11月1日

3.1.1 からの動き

2011	2012
3/27 他団体遊び場開催支援開始 (ふるふるフレンドリーパーク開催支援)	10/14 「子どものまちのいきのまき」協力
4/6 物資支援開始	10/15 北上フレンドパーク有志の会 「うらやまでフレンドパーク」協力
5/1 六郷あそび場開始	10/16 布の紙芝居「なごの屋」 山元町ふし幼枝園支援協力
7/31 いのちをつなぐ森プロジェクト	11/14 ママ企画@実行委員会 「みんなであつなろう」協力
8/3 荒井2号公園あそび場開始	11/15 山形大学講師派遣 「子どもはかわゆる支援者のために」 開催
8/4 ニッパリアあそび場開始	11/23 「あそびぐる」(シロウ)誕生 せんだいファミリーサポート・ ネットワークが福宮から来る親友の ためのママとモロムロJunior協力
9/3 七郷あそび場開始	11/29 仙台市幼稚園教育研究協会 研修会講師派遣
10/29 被災地域における生き物調査開始	11/30・12/19・1/31 せんだいファミリーサポート・ ネットワークが以前のひすぐ(若林) 協力
11/20 海岸公園冒険広場臨時開園	12/24 石巻復興支援ネットワーク 「若林市」市民協働実践研修「受入
1/30 えつちゃん&おかのの縁側倶楽部開始	2/6 中野りあそび場開始
2/1 上荒井公会堂あそび場「ちのち」開始	2/20 ママ企画@実行委員会 「みんなであつなろう」協力
2/16 東通仮設住宅「お茶っこのみ」開始	2/24 子どものための若林市民会議 「若林」あそび場開始
3/3 卸町五丁目公園仮設住宅支援活動開始	3/7・3/9 高橋華子氏「はなはな」 ミニコンサート 協力
3/18・3/25 海岸公園冒険広場臨時開園	3/16 日本冒険遊び場づくり協会 被災地支援協力(大脚)
4/22 子ども環境学会分科会講師派遣	2/3・2/24・3/16・3/17・3/25・3/26・3/28 新しい公共の場づくりの ためのモデル事業学習会 「あたらし」催し「街」づくりにおける 子どもの視点開
5/5 泉・子どもの日フェスティバル2012協力	
5/20・6/17 石巻復興支援ネットワーク「フレンドパーク」や「す」協力	
5/26 六郷七郷コミュニティ支援協力 復興支援イベントス スポーツフェスティバル協力	
5/27・6/3・6/10 日本冒険遊び場づくり協会 「気仙沼あそび」協力	
5/29 テンソー車同輪呈式	
6/18・6/26・7/3 宮城県「地域活動支援指導者養成研修会」講師派遣	
6/25 「いのちをつなぐ森プロジェクト」植樹場所整備	
6/26 ぬめジャパン・日本冒険遊び場づくり協会 「石巻市和刈小 遠足支援」協力	
7/21～24 遊びとまち研究会「せんだい・みやぎ太子堂プロジェクト」 仙台プログラム 協力	
7/26～27 ぶるぶるフレンドリーの会 「ふるふるフレンドパーク」協力	
7/29 冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク 通常総会・交流会 「あそびっかー」による 出前遊び場活動」	
8/4 上荒井町内会夏祭り協力	
8/5 若林3丁目アラウンド仮設住宅自治会 協力	
8/22～24 遊びとまち研究会「せんだい・みやぎ太子堂プロジェクト」 仙台プログラム 協力	
8/22 卸町五丁目公園あそび場開始	
8/22 荒井2号公園仮設住宅「お茶っこのみ」開始	
9/12 ママ企画@実行委員会 「みんなであつなろう」協力	
10/10 杜々かんきょうレスキュー隊 「ふるふるフレンドパーク」 開催	